

本能学区「防災まちづくり」ニュース

VOL. 3
(2021.7 発行)

本能自治連合会
本能学区自主防災会
本能消防分団

自分の身は自分で守る

本能学区自主防災会会長 倉部邦夫

大きな災害（我々の住む地域では水災より地震が想定されます）が発生した場合、ご承知のように消防署・自衛隊といった公的機関に頼ることは出来ません。そうなりますと、特に発災直後はいやも心もなく我々で消火活動・救助活動などを行わなければなりません。

そのためにはそれが出来る知識・技能を身に付けておく必要があります。一方、災害時における高齢の方や障害のある方の支援も重要な課題です。

防災会では消防分団、民生委員、その他学区の各種団体の力を借り、「自分の身、自分の家族、自分の地域は自分で守る」という基本的な考えの下、地域防災に取り組んでいきます。

また、現下の状況が落ち着きましたら今年度は消防分団さんのご協力を得て防災訓練を実施したいと思います。と思っています。おられますので、その際には多くの皆様のご参加をお願いいたします。

また、現下の状況が落ち着きましたら今年度は消防分団さんのご協力を得て防災訓練を実施したいと思います。と思っています。おられますので、その際には多くの皆様のご参加をお願いいたします。



3年間の取組をまとめ、「防災まちづくり計画」をまとめよう！

本能学区では、令和元年度から、学区、専門家、京都市等と連携して災害に強いまちを目指した『防災まちづくり』に取り組んでいます。

1年目は「防災まちあるき」や総合防災訓練における「避難所運営ゲーム」を開催し、住民のみなさんと町内会の現状や防災上の課題等を意見交換しました。2年目の昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、「住民アンケート調査」や、3密を避ける形での「防災部長研修（町内会の防災リーダー研修）」を開催し、3月には『防災まちづくりマップ』を全戸配布しました。

3年目となる今年度は、これまでの取組をもとに、本能学区における今後の「防災まちづくり」の取組等を取りまとめた『本能学区 防災まちづくり計画』を取りまとめる予定です。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策が求められる状況ではありますが、十分に対策を行いながら、総合防災訓練や「防災部長研修（町内会の防災リーダー研修）」を企画し、みなさんのご意見やアイデア等を踏まえた計画づくりを進めていく予定です。詳細が決まりましたら、改めてご連絡致します。みなさんのご理解・ご協力をお願い致します。

「防災まちづくり」とは

「防災まちづくり」は、災害が起る前から、災害に強く、住みよいまちを実現するため、建物（いえ）や道、まち全体の安全を高めるまちづくりの取組です。地域の現状や防災上の課題の把握、課題解決の検討、計画づくり、対策の実行まで、地域と行政、専門家等が一緒になって取組を進めています。



防災まちあるき

路地や建物等の現状、防災上の課題や災害時に役立つ資源を確認。まちあるき後ワークショップで共有



- ・防災、減災には住民間のコミュニケーションが大切。住民同士のあいさつ、声掛けが住民の安全確認等につながる

総合防災訓練

避難所運営ゲーム（ゲーム感覚で避難所運営を学習）の体験、「防災まちづくり」の学習、「防災まちあるき」の再確認



- ・より多くの人に防災まちづくりを広めてほしい
- ・町内で緊急時に指示できる人を事前に決めておく

住民アンケート調査

町内会（防災部長）を通じたアンケート調査により、防災に対する住民の想いやニーズ等を確認

- ・災害時の不安、課題
- ・災害に備えた取組状況の確認
- ・災害に強いまちをつくるための考え方 等

防災部長研修

（町内会の防災リーダー研修）それぞれの町内会で安否確認や救出救護が必要な高齢者等の確認、昭和25年以前の建物等の確認等



防災まちづくりマップ（「地域の集合場所」等のまとめ）

防災部長研修（町内会の防災リーダー研修）

目指す将来像や防災まちづくりの方針など、計画案に対する意見交換（ワークショップ形式）。町内会の役割分担等の検討など、計画づくりに必要な意見を把握（※密を避けるため、幾つかのブロックに分けて開催を検討）

総合防災訓練

本能学区をイメージした避難所運営ゲーム（ゲーム感覚で避難所運営を学習）。計画案の確認・具体的なアイデア等を意見交換

『防災まちづくり計画』
（まちの将来像や基本方針等）の検討
現状や課題、住民のみなさんの想い等を踏まえて、災害に強いまちをつくるための考え方、取組・進め方等を検討

『防災まちづくり計画』のとりまとめ

「防災まちづくり」の実践（計画の実現に向けた継続的な取組）

『防災まちづくり計画』をもとに、「災害に強く、住みやすいまち」を目指した取組を継続

現時点の案であり、変更の可能性が
あります。

裏面もご覧ください

「防災さんぽ」をしてみました！

昨年の3月に作成・全戸配布した本能学区の『防災まちづくりマップ』には、大規模な災害が起こった時に住民が集まる「地域の集合場所」を整理しています。災害からご自身や家族の命を守るため、新型コロナウイルスの影響で増える「おうち時間」などを活用して、自宅から「地域の集合場所」までの避難経路を「さんぽ」してみましよう。『もし、災害がおこったら・・・』と考えながら周りを見てみると、いつもと違った発見があるかもしれません。

災害はいつ起こるか分かりません。できることから取り組み、みんなで災害に強い本能学区をつくっていきましょう。



中京消防署 学区担当 者挨拶

松宮幹乗 (まつみや みきのり)

昨年4月から本能学区を担当させていただいております中京消防署消防課第一部の松宮と申します。

新型コロナウイルスの影響により、本能学区の皆様と顔を合わせる機会がなかなかありませんが、皆様方と一緒に「災害に強い安心安全な本能学区」の構築に貢献していきたいと思っております。

私が災害に強い安心安全なまちづくりで重要と考えていることは、地域の皆様のつながりです。地震などの大規模な災害に、一人でできることには限りがありますが、人が集まりつながることで人命救助をはじめ、様々な問題に対応することが可能になります。

現状では、まだまだ人との接触到配慮が求められる、会合など集団での活動でつながりを深めることは難しい状況ですが、まずは、挨拶など簡単にできることから取り組んでいただければと思っております。

書面上の挨拶となりましたが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



『安心、安全な本能学区を目指して』

本能消防分団 分団長 岡田典明

平素は本能消防分団の活動に対して、ご支援・ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

本能学区では今までも、本能自主防災会の皆さん、中京消防署、本能消防分団が三位一体となって、地域の防火・防災活動を頑張ってきましたが、昨今のコロナ禍で様々な地域活動が制限される中、改めて地域の安心・安全に一番大切なのは『住民同士の「コミュニケーション」である事に気付かされました。

いずれ以前のような日常を取り戻せるようになりましたら、本能学区の皆さんと一緒に『地域の安心・安全を考える』のお手伝いが出来ればと思っております。

本能消防分団は現在22名で活動しておりますが、常に新しい仲間を募集しております。ぜひ地域のボランティアに興味のある方は近くの消防団員にお声掛け下さい。よろしくお願いいたします。



※後列右から3人目が岡田分団長

防災コラム

本能学区の防災まちづくりには龍谷大学政策学部の阿部先生とゼミの学生さんが協力してくれています。今回は、令和元年度に「防災まちあるき」等に参加された学生2人のコメントです！

菅谷友紀子

本能学区といえば、伝統的な町家や複雑に入り組んだ細い路地。郊外出身の私にはそれがとても魅力に感じました。

一方で、木造の町家や細い路地には防災上の危険が潜んでいます。今回参加したワークショップでは、「災害が起きた際の避難所の運営方法」について話し合いました。しかし、さすがは本能学区。防災意識がとて高く、新しく地域に住みはじめた世帯への周知の方法や有事の際の対応についても話し合われました。自分のことだけでなく「地域」のことを考えてくれる人がいる、これも本能学区の魅力です。

田中優大

以前から本能学区では自主防災会や消防団等を中心に防災まちづくりを積極的に進められてきたと伺っていましたが、ワークショップでの避難所運営ゲームやまちあるきで皆さんが積極的に意見を出す姿を見て、改めて本能学区の防災まちづくりへの意識の高さを知りました。

防災まちづくりにおいて、ハード面での対策は重要ですが、コミュニケーションでの取り組み等、ソフト面での対策はそれ以上に重要なことだと思えます。コミュニティの強さで防災力を高める、本能学区はまさにそのモデル的な素晴らしい地域だと感じました。

